

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	417060029		
法人名	社会福祉法人 誠和福祉会		
事業所名	グループホーム みふね庵		
所在地	佐賀県武雄市東川登町大字永野4058番地5		
自己評価作成日	令和3年12月22日	評価結果市町村受理日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人にとって、「楽しい事はより長く、楽しくない事はより短く」というテーマで取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和を基調とした木造平屋建てのホームは、自然豊かな高台にあり、特別養護老人ホームとケアハウスが併設している。法人は、知的・精神・身体障害者施設やヘルパーステーションも展開している。広い施設内には、桜の木や梅の木等があり、散歩コースとなっている。敬老会、夏祭り、文化祭の三大イベントは、コロナ禍で規模を縮小し、外出を控える代わりに、施設内のサクランボ取りや梅契りをして梅干し作りやリンゴ酢つけ等、楽しく過ごせる様取り組んでいる。職員は、理念に沿って振り返りを行い、寄り添える介護が出来ており、入居者の生き生きとした表情と笑い声があり、温かい雰囲気である。職員間の連携もとれ、希望や要望も反映され、働きやすい職場となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「緩やかに、共に楽しく、そして可能な限り自由に・・・」という理念があり、管理者は機会を捉えて常に職員に伝え、理念の共有に努め、日々の業務に生かしている。	理念を常に目にすることが出来る様に、玄関と事務所に掲示している。入職時に、管理者が説明したり、勉強会を通して職員間で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常は、地域行事等に誘いを受け参加したり、地域からのオカリナ演奏で交流があったが、今年はコロナ禍にて外出、面会等を控えている。病院受診や美容室への送迎支援が中心となっている。	現在は、コロナ禍で出来ていないが、地域の伝統行事の『やってみゆい祭』に参加していた。また、地域の老人クラブで職員が講演を行ったり、地域との交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の老人クラブ連合会の健康講座にて、認知症について講演を行っている。キャラバンメイトとして登録されている職員が1名おり、市から活動の依頼があるが、コロナ禍の状況で参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までの外部評価の内容、又、ケアの内容を報告し意見をいただき、サービス向上に努めている。又、地域行事の内容についても教えていただいている。	2ヶ月に1回、家族代表、地域住民、地域包括支援センター職員が出席し、状況報告や質問・意見等、率直に交わされ、出された意見は、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、助言を得、サービス向上に努めている。	市とは、日頃から連絡を取っており、顔の見える良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。法人で身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回以上開催している。定期的に職員研修を開催し、身体拘束廃止について理解を深めている。	職員は、言葉による行動制限を含め身体拘束について、外部研修や法人内でのオンライン研修を実施している。また、個人でもSNSを通して学習し、理解している。現在、身体拘束は行っていない。玄関の施錠も行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や勉強会にて高齢者虐待防止関連法について学んでいる。年に2回、全職員を対象として、虐待の芽チェックリスト表に基づき自己点検を行い、虐待防止委員会で報告し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、職員が成年後見制度活用講座に参加し、勉強会にて他の職員に報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書でもわかりやすい説明に心がけ、納得のいくよう常に配慮している。不安、疑問点等にもアドバイスしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時に、日頃の状況を報告説明している。又、受診後や服薬変更時にその都度説明し、その際にご家族の意見を聞いている。	受診後の報告時や家族の面会時に、出来るだけ意見や要望を聞きとるよう配慮している。また、出された意見や要望は、職員で話し合い、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談等はしていないが、普段の業務中や勉強会後に意見や提案を聞き、必要に応じて代表者に伝えている。	管理者は、普段の業務中や職員会議で意見や要望を聞き、対応している。必要に応じて、代表者に報告し、職員が働きやすい環境作りに努め、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間と業務内容の見直し、又、給与体系の見直しを行い、昇給率や手当の増加に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、コロナ禍にて外部研修は控えている。法人内での研修や勉強会の実施、又、OJT等を行い職員一人一人の質の向上に努めている。又、法人内での研修で、事例を発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナ禍にて他の同業者との交流は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを図り、傾聴する姿勢を大切にしている。不安なこと、困っていること等の要望を汲み取り、『この人と一緒に居たら安心する』という関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者が窓口となり、来訪時や電話相談時にも時間をかけてよく聞き、家族の方の困難事項を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の方の相談内容を聞き、実際に面会し本人の状態を確認し、関係者より情報を収集し、必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方が得意とするところの支援に心がけ、得意分野について教えてもらったり、一緒に生活する事で昔のしきたり等、様々な場面で教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は、施設内の行事に家族同士が触れ合う機会を設け、面会も促していた。しかし、コロナ禍にて、ご家族との面会を控え、電話支援や施設から状態報告、定期的に写真送付等を行い、関係づくりに努めた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて、不要不急の外出は控えている。病院受診や行きつけの美容院には、感染防止を考慮の上、対応。買物に関しては、職員が代行で買物支援を行っている。馴染みの方への電話支援は行っている。	友人・知人の訪問や馴染みの場所へのドライブ等行っていたが、現在は、控えている。しかし、馴染みの人へ暑中見舞いや年賀状を送るなど、コロナ禍でも関係性が途切れない様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者の不可解な行動に対し、いらだたれるご利用者も居られ、トラブルになりそうな時もある。できるだけ職員が側にいて互いに会話に気を配り、混乱等を起こさないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談に応じ、医療福祉関係者と連携をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や家族からの情報などから意向の把握に努めている。又、日々の様子や変化などは日誌に詳細に記録する事で共有し、できる限り、生活に反映できるように努めている。	意思表示の出来る人は、普段の会話の中から意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や仕草等の様子を観察して職員間で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴は、入居時にご家族より聞き、把握に努めているが不十分で、ケアの中で回想法を用いて昔話に耳を傾け、必要な情報は記録し、全職員でバックグラウンドアセスメントに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の観察を密にし、基本的には手や口を出さずに見守るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とのコミュニケーションを密にすることで、ご家族より意見や要望を聞くことが出来、介護計画に導入。又、職員とよく話し合い介護計画を作成し、状態変化の時は、介護計画を見直している。	本人、家族、必要な関係者と話し合い、計画を作成している。状態変化時には、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。介護計画は、個別にわかりやすくまとめられ、振り返りが出来る様工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録を基に、必要時ケアプランサービスの項目を一時中止したり追加したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の訪問理容ではなく行きつけの美容院希望があれば送迎支援を行っている。又、過去に地元のお孫様の結婚式で、式場までの移動、式場での付き添い介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防の方、地元消防団の方との連携はとっている。又、音楽療法士の方と契約をし、月に1回の音楽療法を導入しているが、今年度はコロナ禍にて、音楽療法を中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、本人やご家族の希望により、かかりつけ医を受診支援する事で、入居者の安心に繋がっている。	ほとんどが、入居前のかかりつけ医を継続し、受診支援も行っている。協力医療機関は、定期的な往診がある。かかりつけ医は24時間体制で、必要な場合は、専門医への援助も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師の資格者1名を配置しており、看護師と連携し、日々の健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者へ情報を伝えている。又、病院関係者より、早期退院に向けての相談を受け連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族へ方針を説明している。さらに普段から家族との連絡を密に取る中で本人の状況を共有し、必要に応じて医療連携機関とも連携する事で、チームで対応が取れるように努めている。	看取りに関する指針を作成し、入居時に説明している。職員は、終末期のケアに向けた勉強会等を通し、理解している。状態変化時には、家族、主治医や関係機関と話し合い、ホームで出来ることを説明しながら方針を共有し、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作成してすぐ対応できるようにしている。基本的には、管理者に連絡し対応、状況によっては併設施設の看護師と連携をとる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に6回実施。土砂災害マニュアル等を作成、対応を確認。緊急時には地元の消防団の方と連携。又、過去に運営推進会議にて消防訓練の実施状況を報告し地元の委員の方より助言を得ている。	年6回、日中・夜間想定火災訓練や土砂、水害、台風等の災害訓練を実施している。ビデオでも勉強会を行っている。備蓄品は、法人で管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し傾聴する姿勢に努めている。食べこぼしなど、さりげなく拭いたり、他の利用者から苦言を受けられた時は配慮している。全ての職員が自覚をもって常にケアに取り組んでいけるように心がけている。	尿や便失禁時には、さりげなく始末するよう心掛け、入浴時は、タオルを掛けるなど羞恥心への対応に配慮している。また、個人記録類は、事務所で管理し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の程度で自己表出や自己決定が難しい方もおられるが、食事懇談会等にて出来るだけ、利用者のご希望が出やすいように話かけている。又、無理強いはいしないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えがある方は、出来るだけ希望に添えるように支援している。信仰深い方は、自室や和室の神棚、お位牌にお参りを続けていただいている。外出希望のある方は、コロナ禍にて自粛していただいた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも清潔な衣服を着用、外出前には着替え、お化粧で身だしなみを整えている。散髪を希望の方は支援し訪問契約をしている理美容院にて柔軟に対応。また、ご本人の意向にて近くの美容院へお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲内で食事準備から後片付けまで利用者の方の体調を見ながら一緒にしている。行事に添ったメニュー、誕生会時に個々の利用者の好みのメニューとケーキを準備。献立懇談会にて希望を得ている。晩酌を楽しまれている方もいる。	食事は、入居者と職員が同じものを一緒に、会話を交え、和気あいあいと食べている。料理の準備や配膳、片づけ等、入居者が出来る範囲で行っている。月1回、入居者と一緒に献立懇談会を開き、食事を楽しむことが出来る様、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取(摂取量は把握)に努めている。又、併設施設の栄養士に相談し、栄養のバランスのアドバイスを受けている。その方にあつた食事形態を準備している。又、朝と夕食にヨシケイキッチンを導入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗浄、歯磨き等の促しをして、必要に応じて介助し口腔内の清潔に努めている。ご家族の希望もあり、定期的に歯科の往診を受け、口腔内の清掃に努めている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に本人の様子をみながら早目に声かけしている。入居者の中には、紙パンツから布パンツになった入居者の方、もいる。又、失禁時の羞恥心を配慮して紙パンツを使用している方もおられる。	日中は、排泄チェック表を活用して、入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。トイレが、2部屋ごとに設置された作りになっている為、居室には、ポータブルトイレは置かず、夜間でも出来る限りトイレ誘導をする等、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、散歩や体操等を促し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、日曜日以外毎日実施し希望があれば毎日の入浴も可能。時間帯は、ご本人に意向を確認し、利用者の方のペースに合わせている。しかし、体調により若干の調整。行事の中でゆず湯や菖蒲湯を行っている。	基本、週3回であるが、希望があれば毎日でも入浴ができる。風呂は広く、窓からは自然の景色を眺めながら、ゆっくりくつろぐことが出来る。長湯が好きな入居者には、様子を見ながら声かけを行う等、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを考え、寝巻きに着替えたり、照明を少し落としたり静かな環境を作ることに対応。不安で眠れない方には添い寝を行ったり、快適な温度で安眠できるよう寝具の調整やエアコンの温度管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方が内服している全ての薬について、全ての職員がその目的や副作用等について承知できていない。処方とおりに服薬し、状況をみながら各主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々で特性を活かし日課的な行為として設定。(掃除、洗濯物干し・たたみ、食材切り、テーブル拭き、食器洗い、生花、塗絵、計算ドリル、唱歌や昭和の流行歌のDVD鑑賞、テレビ視聴、体操、園芸、畑作業・カラオケ・晩酌等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にて、地元の行事の参加、ドライブ、買物、お花見スポットに出かけたり、親戚宅への訪問、外食など、外出は控えていただいている。裏庭への散歩やさくらんぼ契り、ケアハウス裏の梅契り、施設周辺のコスモス、案山子見学等で対応している。	武雄神社に参拝したり、ゆめタウン等月1回の買い物に出かけていたが、コロナ禍の為、外出は控えている。敷地が広いので、敷地内の桜の木の散策や梅やサクランボ狩りをしたり、出来る範囲で外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、小遣いを自分で持たれている。病院受診の支払い、買物等がされている。お支払いをされた時は、レシート等を保存しご家族の方が確認しやすいようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用している。又、利用者の方の通話中は窓を閉めるようにしている。手紙、暑中見舞い、年賀状のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外で撮影した写真や入居者の方と一緒に作成した作品を飾っている。ストレス解消の音楽や馴染の歌を流したり、施設内外に花を飾り季節感を出している。	木造作りで、中庭があり、廊下は広く、季節の花が飾られ、清掃も行き届いている。リビングには職員と一緒に飾った7段飾りのひな人形や手作りの飾りつけがある。いたる所に入居者の作品や写真が飾られている。オレンジ色の電球色で落ち着いた雰囲気を出し、湿度や温度管理が行われ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチシート、コミュニティーにソファを設置、和室には堀コタツを設置し、気の合った利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口に昔馴染の木製の表札があり、ベッドの配置や持込の身の回りの品は、各個人に任せている。自室に家族写真を飾ったり、観葉植物を購入され育てておられる方もいる。	居室は、和室と洋室があり、押し入れや作り付けの棚が設置され、広く清潔感がある。ベッドは、入居者の希望を取り入れ、家族と相談し、配置している。写真を飾ったり、お位牌等思い思いの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりの設置、水道の蛇口の工夫、浴室の滑り止め、浴槽のまたぎを広くしたり、安全かつ自立して生活ができるよう工夫している。		